

令和6年8月定例会議事録

令和6年8月6日

鹿屋市教育委員会

○日 時 令和6年8月6日(火)
16時から17時30分まで

○場 所 教育長室

○出席者

教育長	中 野 健 作
教育長職務代理者	早 川 雅 子
教育委員	遠 矢 達 一
教育委員	浜 田 幸 史
教育委員	四郎園 佳 恵

○関係者

教育次長	川 越 太
教育総務課長	隈 元 成 人
学校教育課長	新 屋 公 彦
生涯学習課長	宇 井 知 隆
教育総務課課長補佐	原 田 竜 哉
教育総務課総務係長	東 倉 晃

○議事日程

- 1 開会
- 2 前回議事録の承認
- 3 教育長及び委員の報告
- 4 報告
 - (1) 鶴峰小学校の学校再編に関する方針について
 - (2) 鹿屋市立鹿屋看護専門学校専任教員採用試験の実施について
 - (3) かのや未来創造プログラム～平和の花束2024～について
 - (4) 令和7年3月市内中学校卒業予定者の進路希望調査について
 - (5) 鹿屋看護専門学校校舎の改修について
 - (6) かのやっ子わくわくアドベンチャーin屋久島について
 - (7) 第6回鹿屋市高校生ビブリオバトル大会について
- 5 動議の討論等
- 6 その他
- 7 閉会

○議決事項

議案番号	件 名	審議の状況	採決次第
	(今回はなし)		

○議事要旨

1	開 会
教育長	暑い中お集まりいただき感謝する。 昨日、タイ王国への出張から帰国した。タイ王国の教育長からは、日本の道徳や子ども達の様子、学校のシステムなどを学びたいとおっしゃっていただき、高い評価を受けていると嬉しく感じた。17名で訪問したが、鹿屋市内の小学校の女子バレーチームと、現地の小学生バレーボールチームによる練習試合を行うなどし、交流を深めることが今回のメインであった。現地の部員は、挨拶や集合時間を守るなどの様子の面が素晴らしく見習う部分もあった。現地の小学生と日本の子ども達は、英語が話せなくても、日本語と片言の英語でコミュニケーションをとり、あっという間に友達になり、帰国するときは大変寂しがっていた。両国の子ども達がとても良い交流ができたと感じた。様々な方と話をすることで、鹿屋との交流や日本への憧れがすごく強いと実感し、我々はどう応えられるのかを真剣に考えないと失礼だと感じた。5日間であったが、大変良い経験と勉強をさせていただいた。 本日も宜しくをお願いしたい。
2	前回の議事録の承認
教育長	異議なく承認
3	教育長及び委員の報告
早川委員	県教育委員会の研修で、霧島市の教育委員が発表された内容で、文科省の「いじめ対策不登校支援等総合推進事業」に指定され、第一工科大学と連携し、子の健康観察アプリを開発したようだ。このアプリは、児童生徒が担任の先生以外の機関などに相談できる内容のようだ。学校だけで解決するには難しい問題も、他の機関などと共有し合い、一緒に連携して解決する方向性とのことだった。霧島市はフリースクールを登校扱いしており、連携が上手くできていると感じた。以降、始良市も採用するようだ。 次に、鹿児島弁護士会は、いじめ防止事業の一環で、弁護士を学校に派遣し出前授業などを行っている。2年に1度、鹿児島市が全小学校に出前授業をしているが、配転が必要な程、弁護士が足りない状況になっており、弁護士会として予算化する対策をとった。しかし、予算越えをする状況であり、鹿児島市との折り合わせが足りなかったのだと思う。霧島市は10校分程の補助金を予算化した。他市町村の教育委員会にも予算化を求める文書を送っている。予算化する場合は、弁護士会と折り合わせをして弁護士の対応ができるようにしていただきたい。より多

学校教育課長	くの学校が、弁護士派遣でいじめ防止事業に取り組めると思う。 心の健康観察については、鹿屋市は文科省から指定されていないが研究段階であり、ホームページ等で自由に閲覧ができる。県教委が実施している「学校楽しいーと」に取り組んでいる。心の健康観察と同じく、喜怒哀楽で表情が違うイラストを自分で選択し、今日の気持ちを担任と話をする際の材料にもなっている。子ども達の身上把握について鹿屋市としても取り組んでおり、「心のかけ橋プロジェクト」を中心に、学校以外の色々な所との関わりをもち進めている。 弁護士出前授業について鹿屋市は、県の「スクールロイヤー制度」を取り入れている。昨年度は、「スクールロイヤー制度」で対応のアドバイスをいただいた事案が2件程あった。他市町村では、令和4年度に志布志が5件の要請があった。市としても「スクールロイヤー制度」に加えて新たな取組を考えたい。
早川委員	もっと気軽に派遣を呼んでほしいが、マンパワーのバランスを考えると、数年に1回のペースでも良いかと思う。
教育長	鹿屋市が雇用している弁護士がいるが、学校教育課はいじめ問題や不登校など、さまざまな問題をアドバイスしていただいている。
4	報告
教育総務課長	(1) 鶴峰小学校の学校再編に関する方針について 資料に基づき説明
遠矢委員	今年に比べて統合する年の児童数は少なくなる方向なのか。
教育総務課長	現在は18名であるが、今後は約20名となり横ばいである。
教育長	6学年で20名ということなので、1学年が約3名となる。小規模の良さもあり寂しくなるが、教育面で継続は難しいという判断を地域の方、特に保護者が統合を希望した。一方で、地域に学校が無くなることで困るという意見があるのは一般的である。
教育総務課長	(2) 鹿屋市立鹿屋看護専門学校専任教員採用試験の実施について 資料に基づき説明

(3) かのや未来創造プログラム～平和の花束2024～について	
学校教育課長	資料に基づき説明
早川委員	戦争や戦時中の話を更に広げ、平和のありがたさと共に、戦争はしてはいけないという行動指針を示していた。今回の内容は、視点を変えた内容で非常に良かったと思う。英語部門は台湾からの応募が多く、「Y o u T u b e」との連結について平和の花束実行委員会で意見はあったが決定はしていない。検索すれば全世界に広がるようにすると、世界へのメッセージに繋がるかと思う。
教育長	英語部門の代表作品数は、台湾が3作品で鹿屋市は4作品であった。世界に向けて発信すると謳い取り組んでいる。問題は、高校生からの応募作品が少なく、高校生の参加を増やすことが今後の課題である。
(4) 令和7年3月市内中学校卒業予定者の進路希望調査について	
学校教育課長	資料に基づき説明
早川委員	通信制高校への進学希望と不登校生の関係はあるのか。
学校教育課長	不登校生と通信制高校への進路希望者の関係はある。学校生活に馴染めないことや、友達関係でつまずくなど一度リセットしたいという考えを生徒や保護者がもっている。通信制高校は、そういった部分が一つの受け皿になっていると捉えている。
教育長	現在不登生が、通信制高校の進学を選択することもあるが、通信制も自分の意思を強く持たなければ継続は難しい。そのような点も含め、しっかりと進路指導すべきである。受け皿になるという面では、選択肢の一つになっている部分は大変ありがたい。
四郎園委員	保護者としては、この時期の時点で将来の進路目標を持っている子は少ないと感じている。我が子の進路希望調査票を記入するのにも苦労した。将来の進路や、勉強したいことなど先の希望が少なく、気持ちを高めてあげられるにはどうしたら良いのかとを感じる機会であった。
学校教育課長	キャリア教育に取り組んでおり、学年毎に1人1枚キャリアパスポートを配っている。さまざまな教科の授業を基にして、将来のことを考

	える時間を持ち、自分の良さや得意なこと、成果が出た体験をしっかりと積みませ、将来なりたい職業や好きな事をしっかりと毎学年で積み重ねていく取り組みをしている。
教育長	進路希望調査を7月に行う理由は、生徒が自分の進路を真剣に考え、現実にも迫る教育上の意味があり、県としては、次年度の学校規模の調整を図るための基礎資料を得るためである。
	(5) 鹿屋看護専門学校校舎の改修について
学校教育課長	資料に基づき説明
教育長	建築年によると、別棟よりも看護棟が古いですが、見た目は新しいように見える。
教育次長	看護棟は、空調設備の更新を行った際に、防音対策で外壁も改修したため新しく見えるものである。
浜田委員	鹿児島市内の看護学校は、生徒減で閉校する学校もあるが、鹿屋看護専門学校は、一目置かれる学校のようにあり、生徒も来ていることから、生徒募集の案内するときに、綺麗な校舎というのもアピールの一つにしてはどうか。
	(6) かのやっ子わくわくアドベンチャーin屋久島について
生涯学習課長	資料に基づき説明
早川委員	令和4年度、5年度と比較すると、小中高生の参加人数が違うようだが募集の構成はあるのか。
生涯学習課長	毎年、小学生は5、6年生の24名を定員としている。令和4年度は23名であるのは出発直前に1名、体調不良で不参加となった。中高生は、ジュニアリーダーの子ども達を募った数である。基本的に24名のうち4名で1班を作るため、全6班であり、中高生は6名程度の定員になる。
早川委員	高校生の参加は、主にどこの高校なのか。
生涯学習課長	今回は、串良商業高等学校の生徒が参加した。毎年同じ高校の生徒が

遠矢委員	参加するということではなく、鹿屋のジュニアリーダークラブ、鹿屋っ子JLCから募集している。
生涯学習課長	小学生の参加は市街地の小学校の参加が多いのか。
教育長	年度によって若干違いはあるが、鹿屋市街地の地域の児童の参加が多い。広報の方法もあると思うが、昔から継続している事業ということもある。
生涯学習課長	基本的には、子ども会に入っている子ども達で、育成会が主体となつて行う事業であり、市教委が共催で行っている。子ども会の大事な活動の一つとして実行委員会形式で実施している。
生涯学習課長	(7) 第6回鹿屋市高校生ビブリオバトル大会について
早川委員	資料に基づき説明
生涯学習課長	ビブリオバトルで紹介された本そのものの展示はもちろん良いが、電子書籍での設置は考えているのか。
生涯学習課長	電子書籍で活用する本は、著作権法により期限つきの本と、著作権フリーの2種類ある。図書館にある本の中で人気のある本を中心に選定を進めていくため、ビブリオバトルで活用した本を電子書籍として設置することは必ずしもできるとは限らない。
5	動議の討論
教育長	発言がないので、動議はないものとする。
6	その他
学校教育課長	「鹿屋女子高オープンスクールについて」 資料に基づき説明
生涯学習課長	「鹿屋市文化祭について」 資料に基づき説明 「青少年育成・家庭教育講演会について」

生涯学習課長	資料に基づき説明
	「絵本作家講演会について」
生涯学習課長	資料に基づき説明
教育長	次回の定例教育委員会は、令和6年9月4日（水）16時00分から教育長室で行う。
7	閉会
教育長	以上をもって8月定例教育委員会を閉会する。 以上